２０２４年２月ＮＨＫ東北地方放送番組審議会

２月のＮＨＫ東北地方放送番組審議会は、１５日(木)、ＮＨＫ仙台放送局において、１０人の委員が出席して開かれた。

会議では、まず、「２０２４年度国内放送番組編集の基本計画」および「編成計画」についての報告があった。引き続き、「２０２４年度東北地方向け地域放送番組編集計画（案)」の諮問にあたって説明があり、審議の結果、番組審議会として原案を可とする旨、答申することを決定した。続いて、放送番組一般も含めて活発に意見の交換を行った。

最後に、放送番組モニター報告と視聴者意向報告、３月の番組編成の説明が行われ、会議を終了した。

（出席委員）

委員長　松沢　卓生（株式会社松沢漆工房　代表取締役）
副委員長　佐々木　裕司（東北電力株式会社　常務執行役員）
委　　員　丑田　香澄（一般社団法人ドゥーラ協会　理事）
昆野　勝栄（河北新報社　論説委員会 論説委員）
佐藤　多恵（シンガーソングライター）
武田　靖子（株式会社ジョイン　専務取締役）
永井　温子（株式会社 Ridun　代表取締役）
中嶋　嘉津子（一般社団法人仙台市障害者スポーツ協会　理事）
前川　直哉（福島大学教育推進機構高等教育企画室　准教授）
渡邊　享子（株式会社巻組　代表取締役）

（主な発言）

＜「２０２４年度国内放送番組編集の基本計画」および「編成計画」について＞

○　放送受信料の値下げにより事業支出の削減が始まるなかで、質をいかに向上させていくかが課題だと思う。効率化と質の両立は非常に難しいことだが、どのような観点や手段で両立を図っていこうとしているのか。また膨大な映像資産や、アーカイブスには世に広く知られていない良質な番組や、現代に示唆を与えるような気づきがある番組も多いので、新たに制作するものと組み合わせるなどの活用ができれば、質的な維持や向上が図られるとともに、新たな気づきを視聴者に与えられるのではないか。

（ＮＨＫ側）

投資と効率化のメリハリをきかせてサービスの質を落とさないという“選択と集中”を行いたい。またご指摘のとおり、アーカイブスの活用という観点は重要であり、各波で力を入れていく。

○　昨今、ＳＮＳや動画配信サイトで発信されるさまざまな情報の信頼性や発信のしかたが社会問題ともなっている。「編集の基本計画」においても取材・制作過程の透明化や、“顔の見える”信頼のジャーナリズムといった言及があるが、以前より改善点等はあるのか。

（ＮＨＫ側）

何に基づいて取材・制作を行っているかということを明確にさせていくことが重要だと認識している。来年度の改定では、取材したアナウンサーや記者、ディレクターが顔を出し、取材・制作にあたってのそれぞれの思いも含めてニュースや番組で届けていきたいと考えている。

○　東日本大震災の発災から１３年たつが、原発事故の影響など、福島では現在も災害が続いていると言える状況だ。そういった福島の現状を東北地方向けの番組では盛んに取り上げている一方で、東北地方の外側には十分に伝わっていない印象がある。電力の消費地だった首都圏の人々の関心の低下は、地元に住むひとりとして心が痛む。特定の地域の問題と捉えるのではなく、原発事故の教訓を日本の課題として考え、どうしたら皆が当事者意識を持って日本社会に生かすことができるのか、継続的に取り上げて欲しい。

○　インターネット活用業務に関連して、ＮＨＫプラスでＢＳも対象にするなど、サービス拡充の計画があるか聞きたい。

（ＮＨＫ側）

来年度、具体的に拡充する計画はないが、ＮＨＫプラスのサービス内容については引き続き検討を行っていく。

＜「２０２４年度 東北地方向け地域放送番組編集計画(案)」について －諮問－ ＞

○　大学生や高校生などこれからの東北を担う世代の活動を取り上げるにあたっては、

高校での学習を通して地方で活躍する子どもが増えており、若い世代の思いや熱量を取り上げることで、大人の視聴者にも気づきを与えられるのではないか。また、若い世代には、都会の消費型の生活とは対照的な、みずから作り上げる丁寧な暮らしに憧れがある人も多い。東北でも田舎らしさというよりは、若者に響くセンスがある暮らしができるということにもスポットを当てて欲しい。

○　都道府県の日本人人口減少率では、宮城県を除く東北の５県がランキングの上位を占めている。人口減少についてもう１段階、２段階上げたより厳しい認識を持たなければ、地域の実情を伝えることにはならないという危機感を持っている。東北で共通する課題であるため、それぞれの県の似たような悩みや取り組みを、ブロックの視点でより丁寧に取り上げ、知恵を集めやすくする仕掛けづくりに一層力を入れていただきたい。また、ＮＨＫオンラインに「大震災と子どもたち」というサイトがあり、能登半島地震のあと、東日本大震災当時子どもだった人から能登の子どもたちに向けてメッセージを寄せていたが、思いが交わる場としてよい取り組みだと感じた。デジタルメディアも含めて各職員の創造性や柔軟さを発揮できることがＮＨＫの本当の強さだと思うので、大事にして欲しい。

○　「生活者目線に立った取材で丁寧に届けます」とあるが、いま、井戸水で生活している地域では、気象状況の変化によって井戸がかれて、生活が成り立たないほど水不足に困っている。また、熊やイノシシの被害は報道されているが、近年は猿による農業被害も多発している。こうした状況でも、みずから声をあげられないで悩んでいる人もいる。これらも地域の課題として取り上げるとともに、各地で同様の事例があると思われ、情報を共有して安全・安心につながる番組作りをして欲しい。

○　編集計画案にはスポーツというキーワードが入っていた。パリオリンピック・パラリンピックが開催されるため、充実した内容をお願いしたい。スポーツ人口の減少が深刻ななか、各競技団体や自治体では、競技スポーツだけでなく、レクリエーションやリハビリとしてスポーツに取り組む活動も盛んになっている。スポーツは暗い話題が多い社会に対してよい効果が得られると思うので、取材して発信して欲しい。

○　青森局が「未来を考えるきっかけをつくる」と掲げていた。人口減少など、東北は日本の中でも課題先進地域であると言われるが、そういった課題にうまく対処して地域社会を成熟させる取り組みをしている人も多くいる。そのような挑戦を取り上げて、東北域内はもちろん、全国に発信して欲しい。

○　人口減少が進んでいる一方で、首都圏などの都会から学びを目的に地方に来る教育

留学や、移住、他拠点居住、ワーケーションなど、地方での暮らしにも関心が高まっている。東北の事例や取り組みを全国に向けて発信して、人口減少の解決につながるかもしれない大都市一極集中ではない暮らしの提案をして欲しい。次世代との連携も掲げているが、東北に残ってがんばる若者のパネルディスカッションなど、本腰を入れた番組を期待したい。

○　福島第１原発の処理水放出にともなう風評被害の払拭（ふっしょく）のために、政治的に中立の立場を守った上で、科学的、学術的な解説や信頼できる情報の発信をして、視聴者が客観的に判断するための材料を提供して欲しい。地域の良さを取り上げるにあたっては、東北の人が東北の情報を見るということを意識して番組制作をして欲しい。「限界集落住んでみた」シリーズは番組としてはおもしろく視聴している一方で、地域の高齢者、一次産業、伝統芸能と、ステレオタイプに取り上げている印象を持つ。若い世代が考える今の田舎暮らしのおもしろさや特異性など、若い世代に関心を持ってもらえるような発信になることを期待したい。

（ＮＨＫ側）

いただいた意見を番組制作や展開に生かしていきたい。次世代を取り上げる、次世代に届けるということだけでなく、若い世代がめざしているロールモデルとなる世代の取り組みをどう生かすか、という視点も必要だと感じた。また、地域の安全・安心のために、風水害や地震、獣害、物流危機など東北で起こる一つ一つの課題に向き合って視聴者に届け、解決策を見いだすことを地域の放送局として心がけていきたい。

○　諮問された「２０２４年度東北地方向け地域放送番組編集計画(案)」については、委員の意見の趣旨が番組編成に生かされることを前提に、原案を可とし、答申をしたい。

○　異議なし。

（ＮＨＫ側）

答申を受け、このあと具体的な地域放送番組編成計画について決定し、３月の審議会でご説明したい。

＜放送番組一般について＞

○　１２月８日(金)の東北ココから「誰にも言えなかった ～孤立する妊婦たち～」を視聴した。周囲に相談できない妊娠をした女性など、行政の手が行き届かない人を支援しているＮＰＯ法人などの団体を番組で取り上げ、視聴者に現状を知ってもらうことはとても大事だ。共感が理解を深めることにもつながるので、これからも取材を続け、番組で紹介して欲しい。

○　１月１９日(金)の東北ココから「老いの孤独 どう乗り越える? 老人戦隊と居場所ハウス」を視聴した。しみじみとみたくなる番組冒頭の構成がすてきだと感じた。人生１００年時代と言われる中で、周りの人を助け、そのことによって自分も助けられて、とみんなで分かち合ってさまざまな役割を果たすというつながりの持ち方は、助け合う社会に向けたヒントが詰まっていた。高齢者が抱える課題に対する東北各県の取り組みを紹介する番組ではあったが、東北の外に向けても発信して欲しい内容だった。

○　１月１９日(金)の東北ココからを視聴した。老人戦隊の事例は、ＳＮＳで反響があったからこその好事例で、反響がない確率の方が高い中で本当によかったと心から思った。大船渡の居場所ハウスの事例のほうは堅実で他地域でも参考になる取り組みで、老人戦隊が生まれたきっかけでもあるが、人とのつながりは大事だと改めて感じた。加齢により心身が衰えることは身近な問題で、専門家のパネルディスカッションも非常に関心をもって視聴することができた。

○　１月１９日(金)の発見！あおもり深世界「みんなで考える 青森 冬の避難」を視聴した。関心が高まっているよいタイミングの放送だった。ディレクターが「高齢者疑似体験セット」を着用して雪道を避難した映像からは、雪道避難の難易度の高さが伝わってきた。試算では、午後６時台に発災すると最も被害が拡大するとされており、その時間帯の疑似体験もリポートして欲しい。番組のもとになった試算は震源の想定が太平洋側だったが、能登半島地震があったこともあり、日本海側が震源の場合の数値や被害想定にも興味が湧いた。

○　１月２６日(金)の東北ココから「“生きづらさ”をめぐる対話 トランス男性と母の30 年」を視聴した。主人公が「自分は罪人」という表現をしていることにとても悲しくなった。当事者の親子が語ることばから双方にとってとても苦しい 30 年が伝わり、胸が締めつけられるとともに、もどかしい気持ちにもなった。父親がいるかどうかわからないが、父親の考え方も聞いてみたかった。男性、女性だけではなく、柔軟な考え方ができる世の中になって欲しいと強く思った。

○　１月２６日(金)の東北ココからを視聴した。性的マイノリティーは、みずから他者に伝えないと家族であっても気づけないものだが、顔を出して親子の対話を、しかも仙台の方を放送できるのは貴重なことだと思う。ただ親子が苦しいのは、社会に性的マイノリティーへの偏見や、性別を２つに分けるという強い規範意識があるからであり、これは社会の問題であるという視点を忘れずに、これからもマイノリティーを扱って欲しい。

○　２月２日(金)の東北ココから「“物流危機”を回避せよ　～2024 年問題 東北の模索～」を視聴した。発注元から標準運賃の半分以下にまで買いたたきにあい、ついには仕事を失った下請け業者の肉声を撮影できたことは、取材者の粘りを感じた。ドライバーの負担を改善するための法整備も進む一方で、新たな問題を生みかねない取り組みも想定されるので、労働者を守る視点を大事に、報道を続けて欲しい。

○　２月２日(金)の東北ココからを視聴した。生活に直結する問題であり、知ることができてよかった。４月以降、トラック運転手の時間外労働が規制されるにあたってどの程度の輸送力が落ちるのか具体的な数字で示すことで、影響の大きさを驚きをもって受け止めることができた。運送会社の運転手に１日密着した映像で、長時間労働になっている実態をわかりやすく理解できた。東北ならではの課題として花農業の生産者の取り組みを取材し、物流の課題が産地の死活問題にもつながることが分かった。スタジオの解説も分かりやすく、消費者の意識も変わらなければならないことにも言及があり、ひと事ではない課題として伝えることができていた。

○　２月９日(日)の東北ココから「限界集落住んでみた～秋田・男鹿編～」を視聴した。ディレクターがフレンドリーな話し方で地域に溶け込んでいく様子を楽しく見ることができた一方で、都会出身のディレクターが田舎に住んでみるというステレオタイプの映し方にマンネリを感じてしまった。限界集落それぞれに違いはあるし、ディレクターが限界集落に住むことによる変化や成長もそれぞれだと思う。人気シリーズになっているので、この番組が目指すものを制作陣でもっと掘り下げていって欲しい。

○　１月２７日(土)のＮＨＫスペシャル「“学校”のみらい 不登校 30 万人から考える」を視聴した。子どもたちにも見て欲しいという意図を感じる楽しい番組構成でおもしろかった。他国の事例や、子どもたちが学ぶ内容を自主的に考えるという山形の学校の事例など、多角的に幅広い事例紹介があった上で、第２部のスタジオでの議論へとつながり、非常によくまとまっていた。第２部の議論のパートでは、人選が幅広かった一方で、やや表面的な議論に思え、現場の先生の本音などもう少し踏み込んだ発言や、極論を交えた振れ幅の大きい議論を見たかった。学校を卒業した後の社会の変化

とも関連づけた続編を期待したい。

○　２月１２日(月)の中尊寺金色堂 デジタルで解き明かす 900 年の謎(総合 前 10:05～10:50)を視聴した。通常はガラスに隔てられて遠目にしか見ることができない金色堂の細部を、３次元のコンピューターグラフィックであらゆる角度から詳細に観察することができ驚いた。解像度が高く、専門家の謎解きにも十分応えられる高品質な映像であった。金をふんだんに使い、当時最高級の建築技術をつぎ込んだ藤原氏三代の栄華を余すことなく伝えていた。番組のエピローグでは、金色堂に納められたられたひつぎから発見されたはすの種が開花し、東日本大震災の際に鎮魂と復興の願いを込めて全国に株分けされたというエピソードが紹介され、奥州藤原氏の平和の祈りが伝えられたことに感銘を受けた。金色堂の荘厳な映像とともに、余韻のある演出だった。

○　２月１２日(月)の中尊寺金色堂 デジタルで解き明かす 900 年の謎を視聴した。金色堂がなぜできたかといういきさつや金色堂に込められた浄土思想は、岩手県内ではある程度浸透している一方で、全国的にはまだ知られていないと感じる。戦争や災害が頻発する世の中で、藤原清衡の思想が 900 年たっても理想であることにあらためて気付かされた。映像は、実際に金色堂の堂内に入ったような感覚で衝撃を受けた。専門家でもめったに見られない細部を誰でも見られるのは、とても画期的で貴重な機会だと感じる。文化財を高精細な映像で撮影して一般の人に紹介するという取り組みを続け、日本の文化振興に貢献して欲しい。

○　２月６日(火)のてれび絵本「えほん寄席 堪忍袋」(Ｅテレ 前 8:50～8:55)を視聴した。手描き風の絵を立体的でなめらかに加工した映像作品で、アニメーションのクオリティーに感動した。５分の番組であっても芸術性を追求する姿勢はすばらしく、こうした番組を子どもに見せられるのは幸せだ。アニメーションは日本の大事な文化なので、次世代の子どもたちにも届けられるように、今後も映像表現の開発に尽力して欲しい。

○　【夜ドラ】「作りたい女と食べたい女」を視聴している。主人公の女性どうしの恋愛というほかにも、会社の同僚どうしの関係や親と子、同じ悩みを持つ者どうしの関係性など、必ずしもマイノリティーならではの悩みだけにフォーカスしない描き方がとてもよい。原作の漫画では表現するのが難しいようなことばとことばの間や声色などドラマならではの表現も楽しめている。

○　【土曜ドラマ】「お別れホスピタル」を視聴している。緩和ケア病棟やホスピスの日常や医療従事者の苦労などをリアルに知ることができ、みずからが当事者となった

ときに、このような場所で最期を迎えることができる、生きることと向き合える場所があるということを実感している。最近、医療をテーマにしたドラマは多いが、これは現実に即したストーリーで興味深く見ることができる。

ＮＨＫ仙台放送局
番組審議会事務局